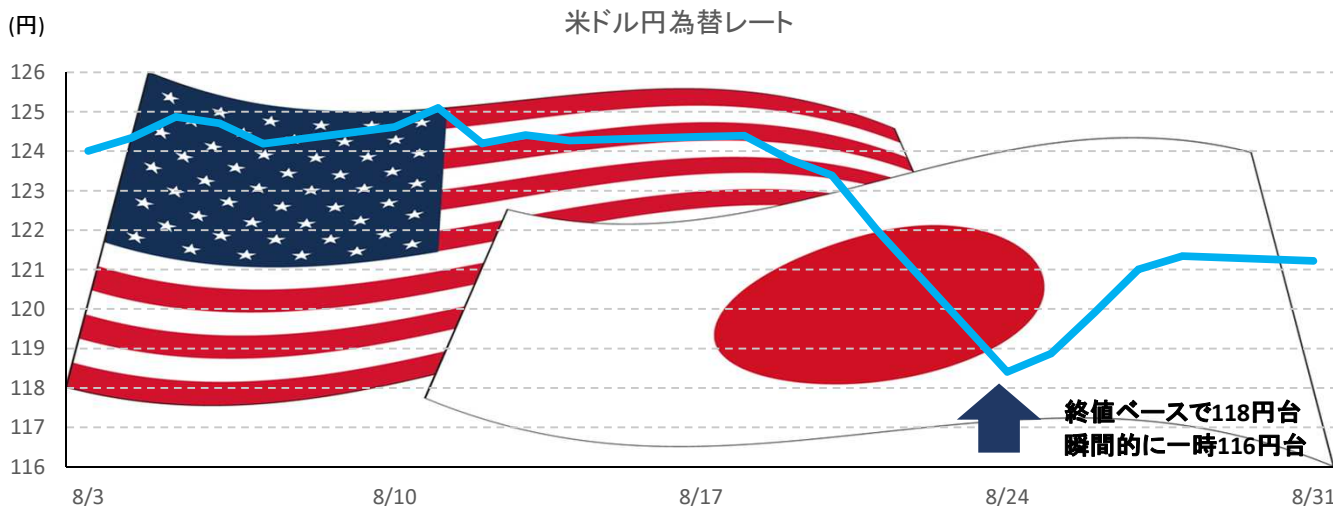


MARKET REVIEW

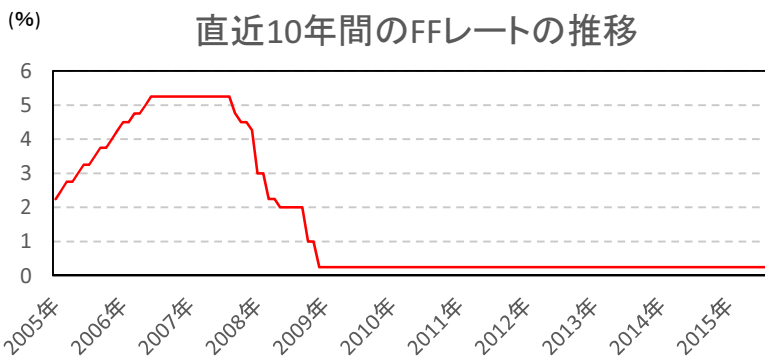
先月の振り返り： ドル円相場は、8月に入り1ドル=123円80銭～125円20銭の価格帯で堅調に推移していたが、中国株安から波及した世界同時株安で様相が一変。原油安も相まって、グローバル金融市場全般のリスクオフの流れでリスク資産である株式が一斉に売られた。そして、ドル円も「中国の株安⇒アメリカの株安⇒利上げ時期の後退⇒ドル売り（円買い）」との連想から、ドルが売られ（円が買われ）、約半年ぶりに一時1ドル=116円台をつけた。8月の最高値から最安値まで約9円変動したことになる。その後は、中国の追加金融緩和を受け、株式市場、為替市場共に反発し、混乱にやや落ち着きが見られたが、緩和の効果を疑問視する見方が多く、混乱収束に向かうかは不透明なままである。



EXTRA VISION

今後の展開： 先の世界同時株安前までは、アメリカ投資家の8割近くが9月に利上げと答えていたが、さすがに現状では、9月利上げ観測は後退気味との見かたが散見される。9月利上げがなくなった場合、次のターゲットとなるのは、「12月利上げ」。12月になっても、「もう利上げして何の問題もない！」という環境は整わないだろうが、イエレン議長をはじめ、FRB関係者が「年内利上げ」を実施するだろうと繰り返し示唆してきた経緯から、12月に利上げを実施する可能性は十分あり得る。仮に12月に利上げされるとなれば、「※FFレート」の誘導水準を、ひとまず、0.25-0.5%まで引き上げ、その後、然るべき環境が整っていない場合は、同水準に長期的に据え置いて様子を見ることになるだろう。この先、アメリカの経済指標や要人発言で短期的に反応しやすい相場展開になりそうだが、まだまだ、中国の株式市場への懸念は払拭されておらず、再び、日本を含めた世界全体の株価が急落する場合は、為替も大きく変動するだろう。そのような警戒は常に持つておく必要がある。

注目用語： FFレートとは、フェデラル・ファンド・レートの略で、連邦準備銀行（アメリカの中央銀行に相当）に預け入れる無利息の準備金が不足している銀行が、余剰の出ている銀行に無担保で資金を借りるときに適用される金利を指す。FFレートが成立する市場をフェデラル・ファンド市場といい、日本のコール市場に相当する。FFレートの誘導目標は連邦公開市場委員会（FOMC）で決定される。



出所：FRB